

ぼくじょう なかま はなし おがわ
牧場の仲間たちのお話：小川

ぼくじょう なかま はなし りょうしん のうじょう なが おがわ あそ
牧場の仲間たちのお話をするには、両親の農場を流れていた小川でいっしょに遊んだ、
すばらしい友達のことを話さないわけにはいきません。春と夏には、小川はわたしたちの
大好きな遊び場になりました。そこは、様々な楽しい学びの機会であふれていました。

おがわ こさかな む て て おがわ こさかな かんざつ
小川には、小魚の群れがいました。わたしたちはあの手この手で小川で小魚をつかまえ、観察しては、
また小川に放しました。小川の底では、小さな黒っぽいタニシもはい回っていました。夏は特に、
カエルの卵のかたまりを見つけ、それがおたまじゃくしになる様子を観察するのが大好きでした。
おたまじゃくしが日に日に成長し、最後にはカエルになる様子を、毎日ながめたものです。



ちい 小こさな おたまじゃくしは、まるどんどん丸まるく おおお大おおきく なり、じょうずしつぽを つが上手じょうずに つか使つかって
みず なが水ながの中なかを およ泳およぎ回まわります。しばらくして うし後うしろ足あしが あし出あしると、まえあしまもまえあしなく て前て足ても で出でます。
そして、さいご最さいご後さいごには おがわしつぽが みずなみずく なり、なが小なが川ながの水みずの中なかから りく陸りくへと あ上あがって き来きます。
おがわ小おがわ川おがわの とて土とて手とてでは、ちいかわいちいい ちい小ちいさな カエルカエルカエルたちが、いっせいいっいっせいせいいっせいに そこらそそこら中中を はねははね回回り
はじ始はじめめます。それは み見みていていて、たのとたのちちも たの楽たのしい ものもものででした！

おがわ小おがわ川おがわの まわ周まわりの しっち湿しっち地地には、ザリガニザリガニヤ、トンボトンボや、の野のネズミのの す巣すも ありあありました。
また、ヤナギヤナギのの き木きや くさち草くさち地地には、いろんいろんな しゅるい種しゅるい類類の とり鳥とりたちが す巣すを つくつくっていまいました。
おがわ小おがわ川おがわは、よろこ喜よろこびと おどろ驚おどろきと きょういく教きょういく育育の ば場ばだだつつたたののです！



じゅうじゆん きょういく いち ぶ いちばんした おとうと ある とき おとうと おがわ
従順である ことも、教育の 一部でした。一番下の 弟が まだ よちよち歩きだった 時、わたしたちは 弟に その 小川を
み おも ねが があ おとうと おがわ つ い だいす
見せたいと 思いました。「お願い、お母さん。弟を 小川に 連れて 行きたいの。きっと、そこが 大好きに なるわ!」

わたしたちが しきりに 頼むので、母は ついに 言いました。「じゃあ、いっしょに 小川を
わた ぬが なが はい やくぞく
渡ったり、水の中に入ったり しないと 約束するなら、いいわよ。」それで わたしたちは
やくぞく おとうと だいす しぜん がっこう つ い
約束して、いそいそと 弟を わたしたちの 大好きな 自然の 学校に 連れて 行きました。



ところが おがわ つくと む がわ い 行くわく
ところが 小川に 着くと、向こう側へ 行きたいという 誘惑が
おお 大きくなりました。「わたしが この子の 腕を 持つから、あなたは
あし も がぞ と おあ
足を持って、3散えたら、いっしょに 飛びこえるのよ! お母さんには
わ 分かりや しないわ。」と、わたしは 言いました。

「1、2の3!」 そう 言って、わたしたちは 飛びはねました。ところが、あわてて 飛んだので、 弟を 放して しまったのです。 弟は 小川の
そばに 落ちて、どろんこに なって しまいました。これでは、わたしたちが 約束を 守らなかつた ことが、お母さんに バレて しまいます!

その 直後の ことは、思い出せません。ただ、その日の 午後の 昼寝の 時間には、いつもより 長く 休んで、
言いつけを 守ることの 大切さを よくよく 考えて みるようにと 母に 言われた ことだけは 覚えています。



でも、その 出来事の せいで、何年もの 間
続いた、あの 大好きな 小川で 自然から
学ぶという 喜びが 台無しになる ことは
ありませんでしたよ!

「けものに たずねるが よい、教えて くれるだろう。
空の 鳥も あなたに 告げるだろう。大地に 問いかけて みよ、
教えて くれるだろう。海の 魚も あなたに 語るだろう。
彼らは みな 知っている。主の み手が すべてを 造られた
ことを。」(新共同訳聖書、ヨブ記 12:7-9)